



製品サンプル(インコネル製タービン部品)

航空機部品に挑戦する 金属加工メーカー

株式会社 古谷鉄工所

事業内容と沿革

NC旋盤導入で 大手と取り引き始まる

昭和26年に古谷勝次氏が大阪市都島区で創業した。いわゆる“町の鉄工所”として旋削加工などを主力としていた。転機になったのは昭和45年の守口工場設立、翌46年に都島工場と守口工場を統合して門真市に新本社工場を建設した頃だ。大手電機メーカーのモーター部品などを手がけるようになり業績が拡大した。西川信之専務は「当時まだ珍しかったNC旋盤を保有していたので、重宝がられたようだ」と振り返る。同時期に大手流体制御機器メーカーからも受注が舞い込んだ。現在も2社との取り引きが続いており、「小規模な会社ながら取引先に恵まれている」と西川専務がいうように、顧客との長期にわたる良好な関係が自慢の1つである。それを証明するように、顧客の海外移転が進行しても仕事量は落ちていないという。加工サイズは小さいもので100mm径、最大で800mm径までが守備範囲。製品はモーターやバルブ部品、車両部品などで主要な取引先は15社ほど。特定の顧客への過度の依存を避け、仕事量の平準化を意識している。「とにかく機械を止めたくない」というポリシーもあり、現在全機種ともにフル稼働状態が続いている。平成27年5月には新たにNC旋盤を1台追加、設備投資意欲も旺盛だ。

強み

難加工材中心に あらゆる金属を削る

創業以来、いわゆる難削材を中心に、あらゆる材質の金属を加工してきた。鋳物、普通鋼、アルミ合金、ステンレス系材料など幅広い材料の加工ノウハウを構築している。最近ではチタンやニッケル系の先端材料であるインコネルなど難削材の比重が徐々に高まってきた。その傾向が決定的になったのは航空機部品との出会い。バブル崩壊後、次の事業を模索していた西川専務がある航空機関連のセミナーに参加したのがきっかけだ。その後経済産業局の仲介もあって、大手航空宇宙機器メーカーとの関係が始まった。平成19年頃のことである。航空機部品といえば加工の困難な材料がよく当たり前のように使われている。高張力鋼としてポピュラーになりつつあるニッケル・クロム・モリブデン鋼「300M」もその1つで、取り引きにオペレーターが出向いて講習を受けねばならないほど。品質要求が厳しく加工の難しい材料を扱う中で、西川専務は「他の製品も同じ目で見えるようになり、社員の意識は確実に変わった」と手応えを感じている。導入したばかりのNC旋盤も大きな戦力になっており、難削材への対応力が格段高まった。「難加工を得意にする」という明確なセールスポイントを武器に、特徴ある金属加工メーカーを目指している。



新たに導入したNC旋盤



三次元測定器



社屋外観



工場内

- 企画提案
- 試作受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談

カドマイスターの取り組み

「JIS Q 9100」の 認証も取得

もっとも高度な品質管理が必要とされる航空宇宙分野に参入するには不可欠の規格、「JIS Q 9100」の認証を取得している。実際に航空機関連事業を手がける企業は例外なく取得しているが、難易度の高い規格であることから10人規模の加工メーカーが取得しているのは極めて珍しいケースといえる。ISO9001をベースに航空宇宙産業特有の要求事項を盛り込んでおり通常、準備期間も含め相当の年月が必要とされる。顧客からの強い要望もあり、全社一丸となって取り組んだ結果、平成19年にISO9001を、平成23年は念願のJIS Q 9100の認証を取得できた。休日を返上するなど苦労は重ねたが、約10ヵ月で取得することができた。「現場を巻き込まなければ取得できない規格だが、社員は積極的に協力してくれた。一体感が生まれた」と西川専務は語る。小規模の企業ならではの良さが発揮できた。

今後の展開

信頼される航空機部品の 加工メーカーに

航空機部品の加工メーカーとして頼られる存在になることが願い。実際に加工を手がけ始め、西川専務は「これほど難しい仕事はない」と実感しているが、その半面夢も大きい。壁はとてつもなく高いが、それを乗り越えたときの達成感は一とおといる。まだ航空機関連の比重はさほど高くないが、徐々に増えており早期に事業の柱に育成する。ただ能力に限りがあるので、現有の設備とスタッフで対応できる範囲に限りむやみに触手は広げない。大手航空機部品メーカー出身の同社顧問も「古谷鉄工所でしかできない仕事に絞るべきでは」と助言する。ただ徐々に守備範囲は広がっている。例えば長尺もの。従来は対応できなかったが、新設備の導入で1mまで加工できるようになった。取引先も広がりつつあり、着実に夢に向かって進んでいる。

いつまでも「お客さまに必要とされる企業」に



代表取締役
西川 町子さん

創業者の古谷勝次は常に「心と心のつながり」をむねとし、日々技術の向上と創意工夫を凝らして60年以上、ものづくりにまい進してきました。創業者の意志を受け継ぎ、そうした土台の上に土台を築くべく、さらなる信頼の構築と技術革新に取り組んでいきます。NC(数値制御)旋盤、マシニングセンター(MC)、NCフライス盤、溶接機などの設備を保有し、精密切削加工を主として事業展開しています。あらゆる金属部品の切削加工に対応しており、複雑形状のものはCAD/CAMでプログラムを作成しています。納期についてもフレキシブルに対応しています。

主な事業内容

精密機械加工品全般

主な取引先(納入先)

パナソニック(株)、(株)中北製作所、テラル(株)、住友精密工業(株)ほか

【住 所】〒571-0015 大阪府門真市三ツ島5-7-27
【T E L】072-883-3992
【F A X】072-883-0374
【創 業】昭和26年5月 【設 立】昭和55年9月
【資本金】1,000万円 【従業員】10名

<http://www.fiw.co.jp/>

